

[第 173 回藤樹人間学塾のご案内]

皆さま

2026 年 4 月



主 催 NPO法人高島藤樹会

■ 日 時 2026 年 5 月 9 日 (土) 15時～17時(今回は第2(土))

■ 場 所 高島市安曇川公民館(高島市安曇川町田中89) ☎0740-32-0003

■ テーマ 「藤樹先生に学ぶ人間学」

テキスト 熊沢蕃山著・伊東多三郎現代文訳『集義和書』(中央公論社)p.261～

■ 塾 長 田中 清行 (090-1026-7882)

2026 年 4 月 4 日(土)、安曇川公民館で第 172 回藤樹人間学塾を開きました。今回は大津から 1 名を含め 8 名(うち女性 1 名)の参加でした。

■ テキスト

『中江藤樹・熊澤蕃山』(中公バックス日本の名著 11)

■ テキストの見出し

「集義和書」巻十 義論の三 江西学派の評判、鬼神を敬してこれに遠ざかる、静坐の利益を輪読し、配布資料も説明。

■ 今日のポイント

- ・ 江西学派の評判…江西の学者(藤樹の学風を維持している)が『孝経』や道教の『感応経』を誦経しているがそれは初歩の段階の学びである。私は用いない。(蕃山は藤樹のように自ら道を切り開こうとした)
- ・ 鬼神を敬してこれに遠ざかる…鬼神は天地造化玄妙の理(太虚・大宇宙)である。鬼神の鬼神たるわけを知るものは誠敬の志が行き渡って自然に遠ざかる。→宮本武蔵は「我、神仏を尊びて、神仏に頼らず」と述べている。
- ・ 静坐・の利益…君子は行住坐臥すべて静坐である。君子の心中の思念は義理をもつぱら考えるときは、いうことは皆義論である。どうして別に議論が必要だろうか。昼は動いて夜は休むがよい。時間を見つけて学ぶがよい。教えを聞いたことは、それを習い行うべきである。

(配布資料について)

- ・ 鈴木秀子「人生を照らす言葉」(致知)…幸福を実感したいと思うならば、多くの犠牲の上に自分の日々の平穏な生活があること、無数の命の支えによって生かされていることに思いを馳せ、静かに味わってみること。私たちは大いなる存在の中に生きている。できることなら、若い頃から平凡な出来事の中に宇宙の精緻な働きを感じ取り、感謝する習慣を身につけておきたいものです。

■ フリートーク

- ・ 「『孝経』の考え方は不易だ。身体は両親から受けたもの、これを大切にすることが孝のはじめ」
- ・ 「不易流行(変えてはいけないものと変えるべきもの)が心に残った。母を亡くし家族で送りたい家族葬で弔った。その後コロナが来て家族葬が一般的に」
- ・ 「現在の世界の戦争の情勢等を見ていると天道が常に善人に味方するとは思えなくなってくる」→しかし、永い目で見れば、天(大宇宙)は進化、成長するもの(善)に味方している。

などの意見をいただきました。塾が終了後、場所を替えて懇親会を行いました。楽しかったです。皆で学ぶと議論が深まります。学ぶは愉し！難しいところも資料を用意して分かりやすく解説します。参加費無料です！人間学に関心のある方はどうぞご参加ください。

